

9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60

雅久子孫進

由内作一帳北西方教長疊且上二七五床子

由内二人科也其前有通淨子

近代由内帳後東方或帳西北又家屏風中

敷方信付直様しや通淨子と代三の帳束

其束可弁丈ホ一の有ニ下事し又日申侍奉

之の良しと辨其束をいふ中事なり

之の地人西のあな甲や平ふた刀の

い副のあなといふに一旦束か護國と二字

をいしりねるつゝ一通をぬきしりねる

ナラ

ふあ



臨松校 津中 津中

内膳司別當事一と云事御九注此を裁く
此執心は文和年中境八条内にお店け裁
實は二も三も道花入る注被服今方苗盛
年奥一町惣乱退ぬお除けは 二町一町は
抄書は津中

ナニナニナニ

三三三

右方方

ナニナニナニナニナニナニナニナニ
人の上を他人のふきかきかきかきかき
は作し及ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ナニナニナニ

三三三

久知方

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニ

三三三

ナニナニナニナニナニナニナニナニ

ナニナニナニナニナニナニナニナニ
ナニナニナニナニナニナニナニナニ
ナニナニナニナニナニナニナニナニ
ナニナニナニナニナニナニナニナニ

由安法了ふかふきし 西より又者お觸

今由品と御之新し 中より一坊之新

三安及 中山及 宣方

才新及 山和及 国及

り如及 中法及 弘方及

小島及 邦人及 中及 弘方及

延正二

元日節會

公卿

右大臣 中御門内納言

打宿紙一枚出し 當日迄 由り付と 不累
後日を東山及 杉原累し 付侍共

南りと 同日又 大分礼 万足 万足又 毛
左様書 納ふ 右下 改せ 宣風 宣風 宣風 宣風
宣國 基面 改改 改改

侍從大納言 冷泉中納言

元日節會教状

中山中納言 甘露寺中納言

公卿

山科宰相 園宰相

右大臣 通世朝臣

少納言

和長

辨

守光

次將

石

忠顯朝臣 雅俊朝臣

いと 結文未到

少納言

和長 領北

弁

守光 領北

次將

石

右

政宗

延徳二 白馬官舎は東山殿の事 依は侍中 踏ふは行 園栖

有臣下事 時節會有無并省略事

寛平三年正月十日無節會依太政大臣去十三日事也

万壽五年正月七日節會有平座依入道殿の事也

建武五年正月七日節會園栖立示心く依昨日行内

右府後室 廣義門院 事也

貞治七年 正月諸節會園栖立示坊家奉ふ心

叙位議之依去年十二月七日之樹事也

建武五年正月七日節會園栖立示等心之依昨日行内

右府後室

曆應二年正月十日節會園栖 美々歌 立示侍心之依

今曉入道右府 事也

康永二年正月一日節會被止園栖立示依去年正月

三品禪后 將軍 事也

右大臣同随所見注進の件

延徳二年正月十日 右大臣雅久上

舞姫少司

延徳二 尚國役日吉及系部 杉何例、のとは海路

以勢をある

了、右府の事

けふぬき二及弘安月

但馬守力

延徳三正月七入道唯后 昨大納言義親

寛平今日節會停止去年

十二日節會有之園栖立示依

南社沢才時日事一可也ふく也のト方や之れ

うー一 九。 羽方

はちね 後余七

かみ 茂神 三友

故海住山人納之家領遠に因河村迄とに因
勒旨田本事一就後遺跡お後仁本家下台
お行不有お遠し中

天家所お執照必使

延徳二年二月十六日右少将

出 市中少方

表 右名字

氏一は行留傳作
高清の事跡事也市中少
家事明也 二家心
之れ子也但不予後様
予カ領主ふに様

春日祭事

一 觸指之賜外託お事

一 上事

一 弁事

一 使 〇 乱家不存

一 侍出車 月

一 内就使事 月

一 左右馬寮祓馬事

一 諸司 勘事

一 進散状事

久仰儒雅

卷一

清江先生
飛人太極功
立賢人
武家子云
柔如也
云々

山國おふ内本陣の稲田事。はる代衆過つて年々
 折面年々日暮り衆神供忽て家々中しふふ此
 中子に衆衆紀の事。何。あ。南代衆。の。い。い。ん。ん
 少の作りやけ。百のとり入。ね。や。ね。ね。

人仙傳記

山國相示内一本は福田事一依久代為地為流年立所當
 昔春日必示社供一國必くやしと云ふ所けし病に
 寺智王一系流る一江流所くといふ下を向く
 折節ゆしう一社に於るを寺人非は所當

所
如
所
所
所

三ノ下
七兵部尉方在

沙上
去々如也友心

山吹園本津人福田代左藏より
 之代左藏物迄押始れ末より
 上より下口少んば苗代左藏より
 物迄背より放りて及一紙く
 之より

本津路

長久保
 小幡
 力
 本
 廿
 日
 何
 所
 の
 事
 一
 人
 何
 所
 行
 何
 所
 也
 也

[illegible]

花人可也

志方志乃成甘乃創己致身

うゝ 右 女 新

甲寅年

之右字

他月しるふ作ふ
又心未觸しるふ作延川

秣馬事

右牙

菊亭

へばり申く かの菊友ふれ

三系人納し

石上
大正
月

乃々し本津人福田重一と云ふ也書也し
 米サ。又ふとて高平の孫立流上り高川經受
 侍し。高平が孫也。未定忠水侍り。高平が孫也。

小舟にて墨刀 苗字はたふか 江よりくさるる
 ところ 数軒 中へ 地へ 入り

一

王

人内儒学

[illegible]

卷之五

本津以稻田寺神位要爲之注礼祭礼之通也

ういりて肝を神信事てお遠親に送る大儀
向ふれりていりて此の如くお現せしめ
ういりていりていりていりていりていりて
いりていりていりていりていりていりて

本津の福田事一おおにやうそれおにやうそれ
島遠親とていりていりていりていりていりて
申入給ひ現せしめ

ういりていりていりていりていりていりて
いりていりていりていりていりていりて

注進

春日公諸司新足事

け打多ノ銘諸司注進ト職事とく

三百五十疋 大蔵省幣新

三十疋 大膳職

二十疋 太正寮

二十疋 掃戸寮

二十疋 内蔵寮

五疋 贖物

百疋 六位外記の訪

百疋 同史の訪

三十疋 公使の訪

五十疋 大蔵省太正寮省下の訪

已上七貫貳百五十文

かきりていりていりていりていりて

ういりていりていりていりていりて

いりていりていりていりていりて

表とて
白田内給ひていりていりていりて

右任例注通如件

延德二年三月日

春日祭

上卿

中衙門大納言

辨

上卿父子例

宣秀

播磨國下郷中村山家下知

退法華山寺押妨

不有相替

了家必此建く

延德二年三月吉日

表之月新

山家下村山家下知
了家必此建く

室康印七

同備守

統秋也

筑前守

二方及在常證文中

乃改印トカクシノ言

堅固字子

播磨國下郷中村山家下知
了家必此建く

延德元年十二月廿日

統秋也

山家下村山家下知

播磨國下郷中村山家下知

三ノ一ノ事

有退法華山寺押妨

了家必此建く

天家必此建く

延德二年三月吉日

表之月新

豐後守

統秋也

延德元年十二月廿日

後改作此

此乃事於天下之計也。而之難得也。而

長海堂領越後國去河庄之

正有也

天聖所也

延永十六年十二月

隱改作此

内裏の種を抄取人吏に

ありて

ア

か

擇申 可被行所八誦日時

今月廿二日戌申 時巳

延德二年四月廿三日陰陽頭在信朝臣有宗

證義者

前大僧正兼圓 大僧正任圓

僧正 乙惠

誦師

僧正 乙惠 法印權大僧都實瑜

大僧都光什 權大僧都運伊

大法師興雲

賢心

延藝

源采

證勢

尊宗

日時勘文又三日夜重々問
於量證所書戸 其
其後出此明餉於月等子
之文則中書定文持在
右方年下則其并
被下日時勘文同内下
定文宿所之也

日付おせ改

延德二年四月又三日

所八種曰古文
儒者定文也

何下如此

丁巳仲夏

四
位
史
分

3

上
江
尾
山

日時敬文之定文礼部
卷之籠く 敬文有礼部
定文礼部
文ノ上下心留檢詰
於右部章一被下中一
也 以翌日消長下
於下月外連延也

天下古今之事一則一社一月のみを振舞
中の人々をよめりてやうにせむ

中
聖茂祚之三修人

鴨福正三位

傳与國菊乃庄若使國宮川庄備亦國尾張桑

山田庄越中國新保庄周防國保保代中藏新文社

奈良社社司藏田河原八町田地尾屋馬場林

木事以故貞久之位讓之而為之台領事不有

おとし

天氣必吐雲

延正二年四月二日 石山寺

子菊餅

之除服出仕

時之也。縫。無。一。羽。服。也。

乙未三月十日七午日

一社一月之抽稅減也我人每及市年

一、
や
く
ん
と
あ
ら
う

五古 古詩 古詩 古詩

鴨祿直三位殿

中
久茂社之三修版

祓祇下町中廣田社領在取敷二箇目三箇
目非定式と法却式入並肩物と大之孔口
本家之存之上下知合子并破皮契約下と合

念行經中

天字所也

延德二年四月五日在并州

斗七
仙二
位

苗圃役米女養料月割一匁を所給す

丁巳仲夏

十了十了

他馬字

江州大上郡甲良庄下郷内安初保高唐事一也

了年以未一

弄石

礼之至者

延徳二子十月九日下戸が寺

浄蓮寺住持

り去年毎年

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二

子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

延徳二子 浄蓮寺住持

ナ
了
十
九
右
廿
三

下
右

月
 采日ちりまわ
 将花園に於て牡丹二株を
 供養する所なり

了々如也

ナ
了
了
了

新下納

七

人視物文曰一之爲字也

一以導師事

二方宣伊僧部

題名儒事

二カ一人_口

月一
是所
一律
亦在
一印

一
去底上

中島初代宗徳

中江氏如 通世

一
存後取
今

一
号
碑

[illegible]

一川事奇

六旦秀

一 魁名儒曰：「子不及敬華。」

一 新又字を

初長月
諷調

不及頃之北也。故曰
正若作日。今必は。也。

一月清公事

一系系人作

一 當り六位花人一人の衆も――

一 出 門 の 衆 行

去年不來 廟裏來 院
院
回

一
期
脚
事

年分五

專叩

夏 邵名儒

一、願文內一備。

穀

五

土卷

五十五 度

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

3
J

...

一 人布施導師一書一畧
是名僧一畧
古中古人用意

ナシ、公、下、良、要

人經十一卷五
人經又訓讀抄事

傳尖事立流の

十九、上作良精反。方。

五ノ中ノ家ニ下也

打穿十ヶ良精進し
くまやうくのうとく二りてんふくし
病にまかり

表三
白濁内約
約
子規

同式
人部

まう
く
子

半日下々経供養々和号事一七〇何々和号。外主子。和如。

畫像之公函字一紙之油

ナ
フ
フ
フ

底

般舟三昧經

如月一日畫像之事不成

北平長安文訊補字什為通人長示了子且丁也

一系外之仙會。清玄不與同位。又備數說。

人持土也。良無稱。乃内。作。之。无。孔。中。人。並。仕。之。

御經供養

御經供養

乙
郷

御導師

中丞郭人仙言中丞李相倚

運伊儒都

河布施取殿上人

題名儒

心書胡氏藤原資直

六位、不て
裁、不
取、不

智
緣

古物 日本武家之及也

下紅事

みりて

道寸師

百七

題名儒

百七

心經 法華經六卷
普賢經一卷
心經一卷

百七

久野文親補所

百七

板戸方 心經一卷

百七

出納の所

八十七

口承仕一人 良精

百七

長谷寺一の寺二月に同じ同様の寺金

所^とて^と下^と金^と祈^と禱^との^と下^と祈^と禱^と

了^此年^也に^けち^ると^と入^と大^と東^と院^と所^と金^と祈^と禱^との^と下^と祈^と禱^と

あ

十一

け 編百一ふと二
九十二

リ 大内之儒の

替星也現事 去法不物也此神の

排奴失く北平 五社一同の抽能行

新入のり西の所

十一

鴨福正 三位

海波國那賀山庄 本役事 龍寺

法文動依と難品と進にふめえ

必し同じなる家

多の金平 孫領事

了年

延德二年十二月
己卯

表之名字

河波字

面仲

苗社校祝以下才將仁事

二五下 未 万 万

子と母と血と下とあはれ人毎人毎人なりや

五

十
了
ハ
七
長
水
厨
有
手

陽孫直之信

四方為事

買物は、その中から、
行く所を、あ、

ナ
ア
ー
ト
ル
母
之
所

花人中



やまゐらとみふねのうきをみせ

たアアアアア

斗
外中

古今

亦在字

天竺國名

ナ
フ
才
山
子

花人

花人檀板

子田 戶字

打
祿中
四方有古之江所

從釋之治它如

中
 と
 な
 祥
 へ

人外別有

之

四
竹
四
方

様中—アノね—久張中神のけろふの

ア方ねのしと作の銀針とは

雅久

丁半ねをぬ役

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

中—中—中—中—中—中—
及中ねのけろふ作

ア—ア—ア—ア—ア—ア—
ア—ア—ア—ア—ア—ア—

ア—ア—ア—ア—ア—ア—

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—
ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—ナ—

